

ムクナ豆を植える

ムクナの原産地はインド近辺だが、インドでは、ムクナはインド版の漢方医療とも言えるアーユル・ヴェーダの代表的な薬草のひとつなのだ。アーユル・ヴェーダでは、催淫剤とされるとともに、運動障害が起きる難病であるパーキンソン病の治療に用いられてきたようです。ムクナは薬草としても、古代から並はずれた特徴をもつことが認められてきて、さまざまな栄養効果が認められています。

世界的に飢餓貧困問題が依然として解決できていない状況ですが、そんな中で伝統的な知恵を活用した自然循環型農業が注目されています。そんな中で多感作用のあるムクナ豆は安心、安全な食べ物生産に多いいに役立つ作物として注目されています。

東カリマンタン州のチークの植林地の土壌をよくするためにムクナ豆を2年前から植えています。2024年4月に収穫することができましたので、次の栽培に立つようする準備をしています。

